



会場の楽屋口には次々とトラックが到着、部員たちは汗だくで楽器を運ぶ

# 楽器輸送

# 低料金をサポート

## 運送会社 吹奏楽コンに不可欠

【大阪】阪神甲子園球場で高校球児の熱戦が繰り広げられている頃、音楽に青春をかける学生の祭典、全日本吹奏楽コンクールの予選もクライマックスを迎える。多くの楽器の移動が必要な吹奏楽コンにロジスティクスは欠かせない。会場では、秋の名古屋市で開かれる全国大会を目指す学生たちの楽器を低料金、高品質な輸送でサポートする運送会社の活躍が見逃せない。(小葉 史和)

フルートやトランペット)が持つて移動するが、チュートラックが必要不可欠だ。といった小型の楽器は部員1人バや打楽器などの移動に顧問の教諭がレンタカーを

借りて運んでいるケースもあるが、出場校のほとんどが運送会社に輸送を依頼する。近年はコンクールのレベルが上がリ、難度の高い曲を演奏する学校が増えてバンドの編成は複雑になり、

使用する楽器の種類も多くなっている。学校を挙げて吹奏楽部の活動をバックアップする一部の私立学校では、遠征用のバスやトラックまで保有しているところもあるが、大半の学校は部員から集めた部費で活動費を賄っている。楽器の購入やメンテナンスにも多くの費用が掛かるため、台所事情は決して楽ではない。

吹奏楽コンでは、ステージでの演奏時間は1校10分程度で、出番の2〜3時間前に会場に入り、演奏後すぐに撤収する。地区大会は

学校に近い会場で行われ、近距離輸送がほとんどなので搬入に1時間、撤収に1時間というように時間制運賃で計算すれば、貸し切りより大幅に安くなる。搬入と撤収が同じ車両やドライバーである必要はないので、運送会社は配車の「すき間」を上手に利用して運行効率アップにつなげることもできる。

最近、ウイングボディやテールゲートを装備した汎用(はんよう)性の高い車両が一般的で、特別な仕様でなくても楽器輸送に

支障はない。更に、部員や顧問は移動に慣れているため、ドライバーに特別なノウハウも不要。とはいえ、丁寧な荷扱いは不可欠で、特に往路の輸送中に楽器が破損すると棄権につながりかねない。

越野運送越野泰弘社長、大阪市都島区では、精密機械輸送のノウハウを生かし、数年前からホームページ上で「レンタカーを借りるより低料金で安心」と楽器輸送をアピール。河野守忠営業部長は「毎年、多くの学校からメールで見積も

り依頼がある。コンクールの輸送を手掛けたことが縁で、コンサートや出張演奏で指名されることも多い」と話す。

また、カロカ急配(平川千波社長、滋賀県守山市)でも、時間制運賃でトラックとドライバーをレンタルする「タイムレンタル住む」が、事業の一環として楽器輸送を手掛ける。平川社長は「営業のついでに中学校などにパンフレットを置いてきたのがきっかけで、そんなに安い運賃でできるなら」と依頼が増え始め

はト、はト、の導を返り